

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	キッズすてっぷ させぼ (児童発達支援)		
○保護者評価実施期間	令和7年 9月1日	～	令和7年 9月30日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	1名	(回答者数) 1名
○従業者評価実施期間	令和7年 9月1日	～	令和7年 9月30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 10月 30日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・スタッフ全員で、案を出し合って作成されるグループ活動の実施。	・子ども、保護者様に分かりやすいように、活動プログラムを毎月作成している。 ・活動にネーミングをつけて、親しみがもてるようにしている。 ・チームワークを大切にしている。	・5領域の内容を取り入れていく。 ・充実した話し合いの場を作っていく。
2	・専門的視点から考え、実行する、個別活動の実施(マイトレーニング)	・ニーズに応じながら、個別にプログラムを立て、その時々の子どもの様子に合わせて、手厚い支援に心がけている。	・専門職同士の連携。(事業所内、法人内) ・専門的知識の収集。
3	・安心感、安全な環境の提供	・「楽しいな」「会いたいな」「一緒に過ごしたいな」など、仲間や大人と一緒に気持ちを共有したり、共感できる気持ちを大切にしている。	・安心して通って頂けるように、保護者様の意向を、把握していく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・医療や発達支援センターとの連携が不足しがち。	・どこが主となり、連携をとっていきべきか、流れの把握ができていない。	・どのように連携をとっていきべきか、今後も考えていく。 ・医療、保健などの繋がりがどうもてるか、情報収集をしていく。
2	・年齢別における細やかな支援内容の提供。	・未就学児、小学生、中学、高校の子どもの課題や悩みはそれぞれ違うものであり、その課題に向き合っていく。	・個別支援計画の見直し。 ・年齢層が上の子どもの通所が多い、事業所との連携。
3	・構造上、玄関が2階となり、階段の昇降が必要となる。	・構造上、やむを得ないと考える為、工夫をしていく。	・手すりの使用を声かけする。 ・階段の昇降は、必ずスタッフが誘導する。